

# 青年協ニュース

全国の取り組みやチラシ・ニュース等をお寄せください！

日本医労連 FAX：03-3875-6270 か [seinen@irouren.or.jp](mailto:seinen@irouren.or.jp) まで

\*このニュースは各県と各県青年部の代表(分かる範囲で)に送っています。

頑張れば報われる？...青年こそ、最大の被害者！

## 大阪 「成果主義」学習会&お花見



青年協ニュースをご覧の皆様、こんにちは。

大阪医労連青年部では、「成果主義賃金の学習会」を開催し、実りある内容でしたので報告させていただきます。4月9日(土)大阪市内で上記学習会&一泊交流集会を行いました。全労災に成果主義賃金が導入される！？と言う事で青年も学んでたかおう、とこの企画を考え取り組み、関西ブロック各府県の青年委員も含めて、26名が参加しました。



日本医労連中執の井上久さんに来ていただき「だまされるな！甘い言葉と成果主義」について講演していただきました。内容は青年層に分かりやすく、沢山の資料も用意していただいて勉強になりました。実は、私は企画にあたり学習するまで「夜勤もしていて国家資格だって持っている」「成果主義が入っても勝ち組だ」と自分のことを思っていました。

まわりにも聞くと「年配者の方のほうが給料多いのはおかしい」と言う青年は少なくありませんでした。しかし、井上さんは「頑張れば報われるのか！？」青年こそ最大の被害者だ、と言われました。成果主義は決して今貰っている倍の給料が手に入るような夢のような制度でもなく、「総額人件費抑制」につながっていくだけのものだと、考えさせられました。

私たちは、医療従事者としてチーム医療を破壊し、患者様の命と安全を脅かす成果主義について考えていかななくてはならないと、レジメは締めくくられていました。

講演後分散会を行い青年意見交換もしました。

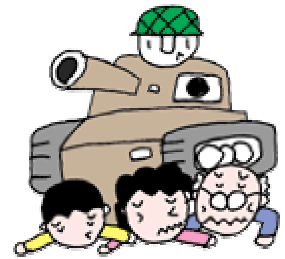
目標参加数を下回った結果で、自分たちだけが学習して満足。に終わらないようにこの問題を広め、深めていく事を決意しました。

全労災には成果主義賃金導入の攻撃は続けられています、今後ともたたかいたいと思います。そして学習会後の交流会は桜シーズンで花見をしました。満開の桜の下でとっても楽しかったです (^-^)  
(大阪医労連☆青年部長 今井紘子さん)



長野県医労連 3・26～27に青年代表者会議

## 松本大本営を見学・学習



戦争の酷さをあらためて知った、二度と繰り返しては行けない!

長野県医労連青年部では、3月26～27日、戸倉上山田温泉にて、単組・支部青年代表者会議を開催しました。今年は、単組・支部の活動報告に加えて、「青年部だからこそ学習を充実させよう!」、ということで学習重視の会議となりました。

今年は被爆・終戦60年の年でありながら、憲法9条改正の動きが強まっている中で、青年部でも平和をテーマに青代を開催したいとの思いから、地元松代の大本営の学習、見学を企画しました。参加者は20数名と寂しかったのですが、内容は大変満足できるものとなりました。

1日目は、松本大本営の保存をすすめる会の事務局長・北原高子さんを招いて、事前学習。なぜ松代だったのか?というのには、地質・地形もあったけれど、信州のシンは、神に通じ、神という名の入った山、「皆神山」も気に入った、という理由も聞いて、天皇を神とする当時の思想教育を感じました。また強制動員された朝鮮人は約7000人いたそうですが、創氏改名で、日本の名前に変えられていたため、現在もその方々の詳細はよく分からないということでした。また、沖縄の地上戦は、大本営の移転をすすめ、アメリカ軍の本土上陸の時間稼ぎであったというように、沖縄と松代の歴史的背景は表裏一体だったことなど、はじめて聞く事実に非常に驚きました。

翌日は、松代大本営地下壕を見学。皆神山、舞鶴山、象山の3つの山に掘られた壕のうち、象山と舞鶴山の2つの壕を見学しました。象山は政府と通信設備が置かれる予定の壕で、公開されている約500mを歩きました。削岩機で掘ったダイナマイトを仕掛ける穴の跡や、電線のための木片やトロツコの枕木など、生々しい工事の跡も残っており、東西・南北に真っ直ぐ、そしてきれいなかまぼこ型に掘られた地下壕はかなり立派なものでした。舞鶴山は宮内省と大本営設置予定の地下壕で、現在は地震観測所として使われており、中までは入れなかったのですが、その南側に建設された天皇の御座所(仮皇居)を見学しました。鉄筋コンクリートで、改装しようにも、頑丈すぎてできないほどというほどの建物で、中は総ひのき造り、空襲時に避難する地下室もありました。

地下壕は鉄骨で補強したりしていましたが、湿気のために水分が地面を侵したり、カビとかも生えたりして保存の大変さを感じました。実際に体験した人が少なくなっていく中で、戦争というものを伝えるためにも、多くの人に見て、感じて、考えてほしいと思いました。また、憲法改悪の動きのある中で、この経験をこれからの取り組みに生かしていきたいと思いました。(諏訪民医労・県医労連青年部長 佐藤勝治さん)

**7・1～3、平和ツアーin長野へ  
ぜひ、多くの青年の参加を!**